

令和2年度 第3回駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議
圏域会議（駿東地域） 議事録

静岡県東部健康福祉センター

日 時	令和3年1月20日（水） 午後6時00分 から 午後7時20分 まで
場 所	ZoomによるWeb会議
出 席 者	<p>【団体委員】 白石委員、江藤委員、竹内委員、佐藤委員、櫻井委員、木本委員、下山委員、紅野委員、土屋委員、長澤委員、杉山委員、渡辺委員、曾田委員 《欠席》 安藤委員（沼津市社会福祉協議会）</p> <p>【市町委員】・・・（地域包括ケア推進担当課長等） 沼津市、裾野市、御殿場市、清水町、長泉町、小山町</p> <p>【県委員】 東部健康福祉センター（黒岩所長） 御殿場健康福祉センター（金子所長） 《欠席》 東部保健所長兼御殿場保健所長 安間所長</p> <p>【事務局】 （県庁）長寿政策課 安本主査 健康増進課地域包括ケア推進室 前川班長 医療政策課 大石主査 （東部健福セ）石川福祉部長、土屋福祉こども班長、仲泊主査、松井主任 古谷技監、鈴木薬務班長 （御殿場健福セ）鈴木福祉班長、菅谷主査</p>
議 事	<p>1 議 事 第9次静岡県長寿社会保健福祉計画圏域会議の策定 説明 県庁長寿政策課 安本主査 （資料1、2）</p> <p>2 報告事項 （1）地域リハビリテーションの強化推進 説明 県庁健康増進課地域包括ケア推進室 前川班長（資料3） （2）地域包括ケア情報システム「シズケア*かけはし」の活用 説明 県庁健康増進課地域包括ケア推進室 前川班長（資料4）</p>

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者名簿 ・駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議（駿東地域）設置要綱 ・資料1 「地域包括ケア推進ネットワーク会議（圏域会議）の概要」 ・資料2 「圏域計画（素案） 駿東田方圏域」 ・資料2-2 「圏域計画（素案） 駿東田方圏域 新旧対照表」 ・資料3 「地域リハビリテーションの強化推進」 ・資料4 「地域包括ケア情報システム「シズケア*かけはし」の活用」 ・参考資料 「第2回圏域会議（令和2年10月28日開催）議事録」 ・チラシ 「病院・施設・地域のケアスタッフ用新型コロナウイルスから高齢者を守ろう」
■議事概要	
1 開会 (石川部長)	・会議の開会
2 挨拶 (黒岩所長)	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙・夜分の会議参加及び日頃の新型コロナウイルス感染拡大防止尽力に感謝 ・県は第9次長寿社会保健福祉計画を3月末に策定予定 ・今回は今年度2回の会議において審議いただいた圏域計画の最終案について御審議いただく。忌憚のない意見交換をお願いする
3 事業説明 (石川部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席は沼津市社会福祉協議会の安藤委員及び東部保健所長の安間委員の2名 ・設置要綱を説明。議長は、東部健康福祉センター所長があたる。 ・会議は公開の対象
4 議事 ●議長 (黒岩所長)	<p>次第に沿って議事を進めます。</p> <p>次第の3の(1)、長寿社会保健福祉計画圏域計画の策定につきまして、県の健康福祉部長寿政策課の安本主査から説明をお願いします。</p>
県庁長寿政策課 安本主査	資料1、2及び2-2について説明
●議長 (黒岩所長)	<p>ありがとうございました。ただいまの安本さんの説明に対して御質問あるいは御意見、それ以外でも結構です。ございましたら挙手の上、発言をお願いします。白石委員、お願いします。</p>
白石委員 (沼津医師会)	先ほど認知症施策のところの説明で「総務省の推計」という説明があったが、資料のとおり「厚生労働省の推計」でよいか。
県庁長寿政策課 安本主査	「厚生労働省」の言い間違いである。資料記載のほうが正しい。
●議長 (黒岩所長)	<p>それ以外にいかがでしょうか。</p> <p>竹内委員、お願いします。</p>

竹内委員 (沼津市歯科医師会)	資料 10 ページ、今回追加された一つ目の○「慢性期病院退院時からの」という文章と二つ目の○「オーラルフレイルはじめ」という文章を追加していただき感謝する。本計画との整合性が取れて大変よくなったと感じている。
●議長 (黒岩所長)	ありがとうございます。そのほかにいかがでしょうか。 木本先生、お願いします。
木本委員 (東名裾野病院)	資料 10 ページ、今回追加された一つ目の○で「慢性期病院退院時からの訪問歯科の関与」とあるが、実際は入院時からも訪問、往診をお願いしている。また施設では口腔衛生体制加算というのが取れて歯科医の先生とかなり連携をしている。 退院時からという言葉が急にでてきたのはどういうことか、説明をいただきたい。
県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長	御指摘いただいた慢性期病院退院時からというところだが、前回10月の会議の議事録の中の竹内先生からの御意見から、主に退院する時点から在宅に戻る際に訪問歯科医との連携が重要であるという理解をした。 しかし、今、木本先生がおっしゃられるように、退院時に限らないということであれば、この退院時という部分を削除するというところでどうか。
木本委員 (東名裾野病院)	是非そうしていただきたい。慢性期の病院でも往診いただいているし、特に福祉施設などは今、口腔衛生体制加算で歯科医の先生から御指示をいただいて口腔衛生をきちんとしているので、入院時からということで変えていただきたい。
●議長 (黒岩所長)	ありがとうございました。 「退院時」という部分を「入院時」に変えるということでしょうか。
県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長	「慢性期病院退院時からの訪問歯科医の関与」ではなく、「慢性期病院入院時からの訪問歯科医の関与」という形で修正をしたい。
●議長 (黒岩所長)	ありがとうございます。 いかがでしょうか。今日が最終の会議になりますので、是非この項目に関することに限らず、今夜、委員の皆様から一度は御発言いただければありがたいと思います。 新旧対照表の 10 ページの 3 の課題への対応の (1) の三つ目の○「新型コロナウイルス感染症の影響で」から始まる文章ですが、三島田方地域の委員の方からいろいろ御意見を賜って、それを今回この文章を追加したということになります。これに関して駿東地域の委員の皆様から、御意見等ございますか。この文章はこの通り追加するというところでよろしいでしょうか。

	<p>特に異存等はないようですので、次に、進めさせていただきます。</p> <p>次は次第の4 報告事項です。</p> <p>資料の3、4について、健康福祉部の健康増進課の地域包括ケア推進室の前川班長から説明をお願いいたします。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>資料3、4及びチラシについて説明</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明について、御意見、御質問、御感想、御要望、何でも結構ですのでいただければ幸いです。</p> <p>木本先生、お願いします。</p>
<p>木本委員 (東名裾野病院)</p>	<p>16 ページの地域別施設別登録状況というところで、最初「シズケア*かけはし」というのは在宅でメインに使うというところから発展してきたと思うが、施設登録で、例えば介護老人保健施設とか有料老人ホームの登録が圧倒的に少ない。</p> <p>在宅というイメージがすごく強いので、多分施設登録しにくい状況ではないかなという感じもある。施設でもショートステイなどは非常に在宅との関わりが強いので、運用によっては非常に（シズケア*かけはしの）利用度が高くなるのではないかと思う。</p> <p>こうした施設の登録が少ないというのは何か特別な問題があるのか。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>確かに木本先生がおっしゃった通り、当初御自宅で暮らせる方々にサービスをされる方々、ホームヘルパーやケアマネジャーなどがかかりつけ医を中心に情報共有をしていこうというところから始まったため、こういった施設系の登録が少ないというようなところが、どの圏域を見ても同じような傾向があるのではないかと。</p> <p>しかし、おっしゃるとおり、ショートステイなどそうした関わりもあるため、施設にはなるべく登録していただくように県から働きかけをして、より皆様で高齢者の方を支えていく、そういうシステムに活用していただけるよう努力していきたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>白石先生、お願いします。</p>

<p>白井委員 (沼津医師会)</p>	<p>施設に所属しているケアマネはシズケア*かけはしに興味を持って利用登録をしたいという意思があるが、シズケア*かけはしの登録料が有料であるため、事業所の本部などがなかなか登録していただけないという状況がある。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>確かに年間1万2千円ほど登録料がかかるため、これがネックになっている面がある。使用頻度が高ければいいが、利用している患者が少なかったりすると、費用が効果に見合わないという判断のもとで、なかなか登録していただけないという事情がある。</p> <p>市町によっては、シズケア*かけはしの登録料についての補助制度を持っているところも一部ある。国の交付金を使ってそういう補助ができる。そうしたところについては、県から各市町に情報提供して、負担を少なくなるように努力していきたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。 竹内先生、お願いします。</p>
<p>竹内委員 (沼津市歯科医師会)</p>	<p>最後に(チラシで)説明された認知症ケアのいろいろなアイデアを蓄積するという案はとても素晴らしいと思った。</p> <p>具体的に、例えば、フレイル予防の観点でいろんな歯科からの情報を載せたいという場合に、どういう手続きをとったらいいか。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>チラシのQRコードがあるので、スマホでも登録できる。また「浜松医科大学認知症ケア ニューノーマル」で検索すると、すぐこのページが出てくるので、メールアドレス、名前など何点か入力していただければ会員登録ができて、それで色んなことを登録していただくことできるようになる。是非一度このページを拝見いただきたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。 紅野委員お願いします。</p>
<p>紅野委員 (県リハビリ協)</p>	<p>地域リハビリテーションの強化推進に関して、駿東田方圏域の広域支援センターの立場から二つ申し上げたい。</p> <p>一つ目は12ページの指定機関一覧について。駿東田方圏域の地域リハビリテーション支援センターが4月1日現在で三つの病院の名前があるが、今年度途中から沼津リハビリテーション病院が新たに支援センターとして指定されている。</p> <p>二つ目は13ページ。地域リハビリテーションを推進するという役割を担っている推進員の所属する協力機関の一覧である。現在270名程度の推進員の養成が済んでいる。</p> <p>しかし、実際に活動する場面が、今年度、新型コロナウイルスの影響もあってか、活動する場が不足しており、養成人数に見合わないという状況がある。</p> <p>市町の担当の方には是非、例えば、通いの場とかサロンへの派遣、それから自</p>

	<p>立支援型の地域ケア会議等へお呼びいただければと思っている。 準備が整っているので活用いただきたい。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。 櫻井委員、お願いします。</p>
<p>櫻井委員 (県訪問看護ステーション協)</p>	<p>地域リハビリテーション強化推進について、11ページの派遣実績の数字を見てみると紅野委員からも説明があったが、今回コロナのせいもあるのか、件数が少ないと思った。 この件数は例年より少なくなっているのか。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>広域支援センターからの派遣というリハビリテーション医やリハ専門職の派遣事業は、今年度新規に立ち上げたものである。 リハ職を派遣するばかりでなく派遣先から報告をいただき、その派遣の評価をするというような一連の流れがある。そちらについて広域支援センターを通じてやっていただいた数字を載せている。 この11ページの真ん中の図のところに、斜め破線で示している④へ派遣依頼(地域の事情に応じて)とあるが、こちらの件数だけしか、コロナのせいではない。 市町から直接各病院やリハ職の方に依頼して来てもらってるというものもある。こちらについてコロナの影響でどれだけ減ってるかというのは今手元に数字がないが、広域支援センターによる派遣以外にもリハビリ専門職の派遣はある。</p>
<p>櫻井委員 (県訪問看護ステーション協)</p>	<p>質問させていただいた真意は、今、要介護や要支援の方への訪問リハビリや訪問看護の件数が日本全国でものすごく増えている。 しかし、実際はやはりこういう予防の段階でのリハビリが大事だと思う。 私の事業所でも、リハビリテーションの教育機関になって、講師の派遣をやったりしているが、介護認定された人たちのリハビリを増やすばかりではなく、予防段階でのリハビリに力を入れることが大事である。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。 ここです、今の地域リハの強化に関して、事業を担っている市町委員の御意見などを伺いたいと思います。 今日御出席いただいている名簿の順番から沼津市の高橋委員から、地域リハ強化の現状や今後のことなどをお話いただければ幸いです。</p>
<p>高橋委員 (沼津市)</p>	<p>沼津市ではリハ職の方を派遣する制度を独自に設けている。 今年度は、コロナによって派遣を希望する通いの場等が少ない状況である。</p>

	<p>コロナが収束してから、通いの場等への派遣をもっと充実させていけたらと考えているところである。</p>
<p>岩岡委員 (御殿場市)</p>	<p>今年度、御殿場市でも、リハ職に通いの場への参加をお願いした。</p> <p>本市では、リハ職だけではなく、栄養士、歯科衛生士の3職種を住民参加型教室をお願いをしたところで、市民の方からたいへん好評を得ている。</p> <p>介護保険サービスを司る私たちの部署だが、要支援者が要介護者となる前のケアが、これからの3年後、6年後に非常に大切になると考える。</p> <p>昨年4月から6月までの間、当市の高齢者に、少なからずフレイルの状態が見られ、介護予防やフレイル対策に、職員一同が深く感じいったところである。</p> <p>この経験から本年度後半、保健師を中心に、リハ職・管理栄養士・歯科衛生士の3職種の参加をお願いした住民参加型教室を開催した。それぞれの先生方とのジョイントが深まった。</p>
<p>服部委員 (裾野市)</p>	<p>裾野市でも通いの場や運動教室などに、リハ職、それから御殿場市さんと同じように栄養士をお願いをして、活動していただいている実績がある。</p> <p>また個別のケア会議等へリハ職の方に来ていただいて、ケアプランについて御助言をいただくということも今行っている。</p>
<p>小松委員 (清水町)</p>	<p>清水町でも、例えばいきいきサロンや各地区で実施している居場所づくりの中で先ほど他市町の方が話されたように管理栄養士とかを入れており、健康相談などをしている。</p> <p>ただ、今コロナ渦の状態でなかなか思うように事業が進んでないという状況がある。できることを少しずつ始めていこうといういろいろ試行錯誤をしている。コロナが落ち着いた段階でいつでもできるようにスタンバイしている。</p>
<p>中村委員 (長泉町)</p>	<p>長泉町でも他市町の状況と同じく、各自治会ごとの通いの場であったり、認知症予防教室などでリハ職のみならず、栄養士や歯科衛生士の派遣を行っている。</p> <p>やはりコロナの影響で今年度は思うような活動ができていないが、今後、コロナが収まったらまた活動をしていきたいと考えている。</p>
<p>山本委員 (小山町)</p>	<p>小山町においても、住民主体の運動教室や、居場所などの通いの場に、リハ職、それから市町と同じように栄養士や保健師などの専門職を派遣している。</p> <p>また今年度から、保健事業と介護予防の一体実施ということで、高齢者の居場所等に専門職を派遣するという事業を今年度から取り組んでいるが、コロナ渦ということで、当初計画したようには事業がちょっと進められていない。</p> <p>今後コロナの状況を見ながら、来年度以降も取り組んでいく。リハ職等専門職</p>

	の派遣を積極的にしていきたい。
●議長 (黒岩所長)	<p>ありがとうございます。一通り市町委員からの御説明がありましたが、このコロナ禍がかなり事業にも大きく影響しているという話がありました。</p> <p>感染症の専門家の先生方の中には、このコロナの感染状況は今後1、2年は続くという話をされてる先生もいる中で、地域リハの重要性というのは、その間、決して止まてはいけないという部分もあると思いますので、是非工夫をして、なるべく事業は継続し、また推進されるような工夫を各市町の皆さんにはお願いしたいと思っております。</p> <p>ほかに御意見等ございますでしょうか。</p> <p>渡辺委員、お願いします。</p>
渡辺委員 (県小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)	<p>この地域リハビリテーションの強化推進に関して、私の施設でも、市町の委託事業として介護予防教室を実施していた。この教室では体操やリハビリを行って、リハ職の方が来て助言や評価をしてくださるのは、教室を実施する上で心強いという声が当施設の介護職からあがっている。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>ありがとうございます。そのほかにいかがでしょうか。</p> <p>この地域リハの強化以外のことでも結構です。先ほどのシズケア*かけはしの件でも、最後の認知症ケアの浜松医大の件でも結構です。</p> <p>それとその前半の議題の部分も含めて、全体を通してでも結構です。</p> <p>御意見ございますでしょうか。</p> <p>江藤委員、お願いします。</p>

<p>江藤委員 (御殿場市医師会)</p>	<p>御殿場市の在宅医療介護連携推進会議の会長をここ数年ずっと務めている。 御殿場医師会長を巻き込んで、毎年数回の専門家研修とか市民フォーラムみたいな100人とか200人の規模でやってきた。コロナ渦の状況でそうしたものが全部できなくなったのでどうしたものかと思いつつ、やはり少しずつ進めないといけないと考えた。</p> <p>私個人として公民館に行って、20人前後の区長さんをはじめ、住民の方に小さな出前授業を行った。そういったところから始めるようにして、昨年12月の土曜日に2時間ほどやった。</p> <p>在宅医療はどのようなものか、訪問看護はどのようなものか、ということそのように少しずつ住民に周知するということがとても大切だと思っている。</p> <p>県の圏域計画はとてもよくできていると思うし、何も異存はない。 ただ、実行、実践するということが大切である。</p> <p>ここ数年はみんなで集まってやるというのは多分難しいので、公民館に僕が行って小人数でお話をするレベルで行う。そうすると住民の方が来てくださる。そういうので嬉しいと思っている。うち(神山復生病院)も看護小規模多機能型居宅介護事業所や介護医療院になったのでそういう話もした。</p> <p>認知症の話をやると多分食いついてくるかなと思っている。認知症初期集中支援チームというものもあるということなど、みんなで集まらない間は、やはり地道に住民に周知させること、そういう努力が必要ではないかと思ってやっている。</p>
<p>岩岡委員 (御殿場市)</p>	<p>10ページの中で、駿東田方圏域計画。丸ポツの三つ目。新型コロナウイルスのこの状況下でも、やはり取り組んでいこうというメッセージを県の方々が出してくれたというふうにとらえている。</p> <p>このメッセージを私たち市町は非常に心強く思っている。何分初めての経験で、情報が無いなかで、通いの場や介護予防教室など人が集まることを果たしてやっていいのか、どの様に運営するのかというところから試行錯誤が始まっていた。</p> <p>今回このように県の計画の中でメッセージをいただいたことで、私たちも自信を持って、高齢者の予防に取り組んでいけると感じている。</p> <p>謝辞を申し上げます。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>ありがとうございます。 ケアマネ協の長澤委員、お願いします。</p>
<p>長澤委員 (県ケアマネ協)</p>	<p>今、在宅の療養で、医療依存度の高い方が増えているように感じている。 看取りや認知症の方も在宅でこれから支援していくということがもっと多くなっていくにつれて、多職種連携がさらに重要になってくると思うが、対面式で</p>

	<p>は今の時期なかなか会うことができなくなってくる。</p> <p>そうなるとやはりシズケア*かけはしの活用をもっと手軽にできるようになるといい。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>長澤委員おっしゃられた通り、コロナ渦で皆さんが集まって議論するのがなかなか難しくなってきた。実はシズケア*かけはしで現在試行的にこういうリモート会議ができるようになってきているようだが、もっと容量を増設して使いやすいうように変えていくつもりでいる。御期待いただければと思っている。</p>
<p>櫻井委員 (県訪問看護ステーション協)</p>	<p>在宅看取りに関しての現状をお話したい。コロナ渦によって、看取りに対する考え方が大分変わってきたなということを感じている。</p> <p>今年1月に入ってから私たちは5、6人看取っている。大体90歳代とか百歳とかそういった方々である。</p> <p>普段であれば、その方たちは動けなくなったと言ったら救急車で病院に行かれたと思うが、コロナ渦の今、病院でなかなか面会もできないという状態である。</p> <p>御家族に今は病院に行くともう面会はできませんよと言言うと、皆さん本当に真剣に考えていただいて、それならばやはり自宅で頑張って看取ろうとすることが増えてきた。</p> <p>今まで在宅看取りを進めてきてもなかなか一般の方の意識が変わらなかったが、コロナ渦ということで病院に行っても何の解決にもならないのだという、自宅で看取るしかないという覚悟のようなものが一般の人たちに少し出てきたかなと感じている。</p> <p>コロナは嫌だが、看取りの部分での意識改革が少しできてきつつあるのを何とか次に続けていけないか、看取りを真剣に考える今のチャンスをどういうふうにもっていったらよいかと考えている。</p>
<p>佐藤委員 (沼津薬剤師会)</p>	<p>コロナ感染症拡大の今の時代に、シズケア*かけはしはすごく価値が上がったのではないかと感じている。是非利用できるようになりたいが、できれば先ほどの話にもあったように、予算、お金がかかるというのがどうしてもネック、大きな障害になっていると思う。</p> <p>市町とか県とかがどこかで予算が取って、全員が無料で一度利用してお試し期間でやってみたら、すごく利用できるのではないかなと思う。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>繰り返しになってしまうが、市町によって工夫して補助しているところがあるので、そういった動きが広がればいいと考えている。</p>

<p>白石委員 (沼津医師会)</p>	<p>認知症施策のところ、(3)の認知症施策の上から6番目の○に「認知症疾患医療センターについて住民の認識が十分でないためさらに周知が必要です」という文言があるが、認知症疾患医療センターは住民がいきなり行って診てもらえる場所ではないので少し違和感がある。</p> <p>周知していただいてもいいが、まずはかかりつけ医を持たない方のかかりつけ医につなげるとか、認知症サポート医のところできるだけ早く連れて行くとか、そういう流れから認知症疾患医療センターに行くので、そのところがどういう周知をされるのかお聞きしたい。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>白石先生がおっしゃった通り、認知症の疑いのある方が直接、認知症疾患医療センターに行くわけではなく、かかりつけ医を受診していただいてかかりつけ医の御判断で鑑別診断等が必要だということになったときに、認知症疾患医療センターにつなげるということになっている。</p> <p>ただ、認知症疾患医療センターを知っていただくことは、自分が住んでる地域でも、認知症になっても、こういった専門的な医療が受けられるということで安心していただけるというような効果があるかと思っている。</p> <p>また認知症疾患医療センターの専門性をうまく活用していただくこと、我々は集合相談と呼んでいるが、認知症疾患医療センターの方に講演会などに出向いて講演活動していただいたり、相談会みたいなものを開いていただいて、認知症についてのいろいろ知見を広めていただいたりしている。</p> <p>そうした取組を行っている。</p>
<p>●議長 (黒岩所長)</p>	<p>貴重な御意見ありがとうございました。 富士病院の下山委員、お願いします。</p>
<p>下山委員 (富士病院)</p>	<p>シズケア*かけはしのことについて、御殿場のシズケア*かけはしの利用を拡げるといふ役割をうちの病院も持っているが、なかなか拡まらずにいるのが現状である。</p> <p>このコロナ渦で多職種の連携がなかなかとりにくくなってるので、長澤委員もお話されたようにシズケア*かけはしをうまく活用していけたらと、気持ちを新たに進めていきたい。</p>
<p>土屋委員 (地域包括・在宅支援センター協)</p>	<p>2点ほどお話ししたい。</p> <p>1点目は「シズケア*かけはし」について。現場で使っていて、自分たちのソフトとシズケア*かけはしと二つ対処していかなくちゃならないということと登録料が有料であるということが普及させていくときに難しい点ではないかと考えている。ケアマネは自分たちのソフトを持っていたりするため、同じ内容のものを二つ入力しなくてはいけないとなると大変ではないかと思っている。</p>

	<p>もう1点はリハについて。どの市町の意見を聞いていてもリハ職は色々なサロンに出かけたりしているという意見があったが、私の所属している町では、地域ケア会議の方に専門職の方が来てくれてアドバイスをさせていただいている。</p> <p>そうするとプランがだいぶ機能回復に向けた前向きなものになり、介護予防に繋がるプランになると思っている。</p> <p>大勢の中に専門職が行くというのはコロナ渦の状況の中では難しいと思うが、地域ケア会議でやるような少人数の会議の場であれば、今後も活動していけるのではないかと思っている。その辺でリハ職に積極的に関わっていただくと、我々プランを立てる立場のものとしてはありがたい。今後も支援いただきたい。</p>
<p>杉山委員 (県老人福祉施設協議会)</p>	<p>シズケア*かけはしの件で、私どもはショートステイを運用しているが、やはり居宅の普及率がどうしても低い。情報提供する時にはファックスが基本になってるのが現状である。</p> <p>メールとかのやりとりも実際やってるところの方が少ないというのが実情であり、ファックス並みとは言わなくても少なくとも標準で持ってる装備でないとなかなかシズケア*かけはしを情報ツールとして使うというところまでいかなないかなというのが今日の話聞いた印象である。</p> <p>機能全部を使わなくてもメーカーとして使うとか、何か情報提供するときだけメールのように使っていくなど、限定的に使う前提でもとにかく普及をさせるということがまず第一かなと考えている。</p> <p>登録料のことも各施設によっては影響があるのも事実なので、できれば普及を最優先にして補助をいただけるとありがたい。</p>
<p>曾田委員 (県ホームヘルパー協)</p>	<p>地域リハビリテーションの強化推進の点から。通いの場やサロンを市町を中心に作られているが、在宅の利用者さんが積極的に出向いて行けるような声かけができればいい。</p>
<p>木本委員 (東名裾野病院)</p>	<p>13ページのリハビリテーション協力機関について、昨今リハビリテーションの先生が非常に増えてきている。介護老人保健施設などは必ず人員基準として、リハビリの先生を必ず置かなければいけないことになっている。もっとすそ野が広い感じがするが、協力機関をもう少し広げていくために何か工夫はされているか。</p>
<p>県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長</p>	<p>この協力機関は、今年度4月1日に初めて指定をさせていただいたもの。第2弾、第3弾というのはまだこれからだが、まずこの協力機関には地域リハビリテーション推進員等がいて、その推進員等が地域の市町が行う介護予防活動等に協力するよというふうに答えてくれていて、そういう推進員等がいる施設に対して、こういった協力機関になって欲しいと話をもちかけて、第1弾ということに</p>

	<p>なっている。</p> <p>先ほど申しあげました広域支援センターを中心とした派遣の仕組みの中で、この協力機関の皆さんに派遣協力していただき、色々なところに行っていただいて、第2弾第3弾の協力機関を今後指定できればいいと考えている。</p> <p>そういった点で、地域リハビリテーション推進員の育成は続けていくので、新たな協力機関の指定を目指していきたいと考えている。</p>
木本委員 (東名裾野病院)	<p>シズケア*かけはしについて、個人情報を入れるときに電子カルテの連動という話が最初出ていたと思うが、連動できると情報が電子カルテからスムーズに行くと思う。少し難しい話だと思うが、そのあたりを考えているか。</p>
県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長	<p>電子カルテとの連動ができないかというような話を今いただいたが、今のところ来年度考えてる中で、そうした話は残念ながら上がっていない。</p> <p>再来年度以降できるのかどうか、医師会の方にも意見をお伝えしていきたい。</p>
紅野委員 (県リハビリ専門職団体協)	<p>地域リハビリテーション協力機関の件でお話したい。</p> <p>我々リハ職は病院等に所属しているわけだが、そこから地域に出向いていくと、その分その病院での業務ができないということになってしまう。(リハ職が地域に出向くことを) その所属の機関に認めてもらう努力も一方では必要かと考えている。</p> <p>我々広域支援センターとしても協力いただけるように病院にも働きかけていきたいと思っているが、県からも是非病院に対して協力をお願いしていただきたい。</p>
県庁健康増進課 地域包括ケア推進室 前川班長	<p>私どもの方からもできる限りそういった形でお勧めしていきたいと考えている。</p>
●議長 (黒岩所長)	<p>皆様、ありがとうございます。</p> <p>大分時間も押して参りましたので、この辺で議事を閉めたいと思います。</p> <p>本日私と合わせて、御殿場健康福祉センターから金子所長が見えてますので、御挨拶をいただきたいと思います。</p>
金子委員 (県御殿場健康福祉センター)	<p>御殿場健康福祉センターの所長の金子でございます。</p> <p>本日は長時間にわたり貴重な御意見をいただきありがとうございました。委員の皆様方には、今後ともそれぞれのお立場でこの圏域における地域包括ケアシステムの構築・深化について御尽力御協力くださいますよう、よろしく願いをいたします。</p>

○石川部長 (事務局)	<p>皆様におかれましては、長時間にわたり熱心な御議論いただきありがとうございました。本日は限られた時間ではございましたので、言えなかった御意見や、後程お気づきになった点等がありましたら、事務局あてに御連絡いただければ幸いです。</p> <p>資料1の説明でありました通り、今後県の部会や会議を経て、3月末に計画が策定公表される予定でございます。なお公表された計画につきましては、来年度以降、皆様のお手元にお送りする予定です。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和2年度第3回駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。ミーティングの終了をお願いします。</p>
----------------	--